

訪問看護の手引き

＜訪問看護をより効果的にうけるために、
患者さん・ご家族に行ってほしいこと＞

(2023年2月)

**訪問看護は、看護師が患者さんの自宅を訪問して療養生活を支援する
看護サービスです。**

介護保険や医療保険を利用することで、訪問看護の経済的な負担を軽減することができます。詳しくは、「脳腫瘍患者さんに関わる社会保障制度について」を参考にしてください。介護保険が申請できる場合は、主治医と相談の上、速やかに申請しましょう。

訪問看護ステーションを決めましょう

在宅療養を行う場合は、主治医やソーシャルワーカーに相談して訪問看護ステーションをまず決めます。介護保険を利用している場合は、ケアマネージャーも相談にのってくれます。訪問看護ステーションによって、土日や夜間の対応状況も異なりますので確認しましょう。

訪問看護を利用することにより、下記のようなサービスをうける ことができます。

- 病状の観察（異常の早期発見・対応）
- 日常生活援助（清拭、足浴、入浴介助など）
- 医師の指示による医療処置（点滴、中心静脈栄養、経管栄養、在宅酸素、留置カテーテル管理、褥瘡や創傷処置など）
- 医療機器の管理（吸痰装置、人工呼吸器、点滴ポンプなど）
- 在宅でのリハビリテーション
- 苦痛を緩和するためのケアやリラクゼーション
- 自己決定のための相談や支援
- ご家族等への介護相談・支援
- 終末期の看護、人生の最終段階のサポート

訪問看護を効果的に受けるために下記のような内容について話し合っておくとよいでしょう。

- 自宅でどのような生活がしたいのかなど、患者さんご自身の希望を確認する
- 患者さんご自身がどんなことを大切にして過ごしてきたのか、価値観について考えてみる
- 家族間で現在の症状、今後の見通しについて情報共有を行う

今後の見通しについてイメージするのが難しい場合には、訪問看護師や主治医・在宅医または訪問診療を担う医師に尋ねてみましょう。

- 介護の協力者はいるのか？
- いる場合は、どのくらい協力してもらえるのか話し合っておく
- 介護が長期化した場合に備え、ショートステイやレスパイト入院*についても検討しておく
- どこまで治療を行うのか？
- 緊急時の対応はどうするのか？（まずどこに連絡するか）
- けいれんをおこす場合は、けいれん時の対応を知っておきましょう。
- 口から食べられなくなった時にどうするのか？
（点滴、胃ろう、鼻から管を入れる、何もしない）
- 病気が進行した場合に、どこで最期を迎えるか？（自宅、病院、その他の場所）

*レスパイト入院

レスパイト（respite）とは、“休息”という意味です。在宅療養を行っている患者さんや、介護を行っているご家族などの休息目的や、一時的に自宅での療養継続が困難となった場合に行う短期入院を、レスパイト入院と言います。

医療施設によっては、レスパイト入院をご利用いただけることがありますので、主治医などに相談してみてください。

病状が進行して、点滴や薬が必要な場合には、往診医を 決めておきましょう。

病状が悪化している場合は、医師に往診してもらうことで、安心して在宅療養ができます。往診医を選ぶにあたっては、訪問看護師さんと相談して、かかりつけの主治医やソーシャルワーカーに相談してみてください。

訪問看護の費用の目安 (2023.1 時点)

* 詳しくは、ご利用予定の訪問看護ステーションやケアマネージャーへご確認ください

介護保険で週 2 回利用の場合

* 緊急時の訪問体制利用を含む

1 割負担	2 割負担	3 割負担
約 8000 円~/月	約 16000 円~/月	約 24000 円~/月

医療（健康）保険で週 3 回利用の場合

* 緊急時の訪問体制、特別な医療処置の管理料含む

1 割負担	2 割負担	3 割負担
約 11300 円~/月	約 22500 円~/月	約 33700 円~/月

編集・発行

JSNO 特定非営利活動法人日本脳腫瘍学会 <https://www.jsn-o.com/>

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2 杏林大学医学部内

TEL : 0422-47-5511 (内線 4546) E-mail : jsno@jsn-o.com

作成者 日本脳腫瘍学会 脳腫瘍支持療法委員会

泉山 久代 (在宅療養支援ステーション楓の風 世田谷サテライト)

神取 知子 (脳神経外科のぞみクリニック)

大友 ゆきえ (在宅療養支援ステーション楓の風 世田谷サテライト)

廣田 芳和 (在宅療養支援ステーション楓の風)

櫻田 香 (山形大学医学部 看護学科・基礎看護学講座)

成田 善孝 (国立がん研究センター 脳脊髄腫瘍科)

発行日 2023 年 2 月 1 日

本パンフレットの内容については、必ず医師・看護師など医療者の説明を聞いてご使用ください。
無断で本パンフレットの内容を複製・転載することを禁じます。